

市民がつくる「環境首都・北九州」タウンミーティング

【 意見交換 】

司会： それではこれより、会場の皆様との意見交換を行いたいと思います。何かご意見・ご質問がございましたら、挙手をお願いいたします。

お時間が限られておりますが、精一杯お答えさせていただきたいと思います。どうぞ、忌憚のないご意見、ご質問をお待ち申しあげます。どうぞ、ご遠慮なく挙手をお願いします。

質問者1： 私は、普段何も貢献していないのにおこがましいと思いますけど、北九州市に子供の頃から住んでいまして、きれいな街になりまして、これから未来に向けて50年ということですので、一つこの夏に感じたことを、市長様に直接お話したいと思ひまして、勇気をふるって発言しております。

40年前に都市計画がされまして、これから人が住むべきところ、住まなくていい場所と線引きがされました。

先ほども出てきましたが、若松北海岸の幹線道路から少し見える集落に、私は建設業なのでお客様が土地を探していたので、暑い夏に1軒1軒探しましたが、「この辺は家は建てられない」と言われて、立派な家がありましたが、85歳のおじいちゃんが一人で住んでいました。それで、次は頓田に行って緑の豊かなところで探しましたが、やはりこの辺にもよそから来た人は住むことができないと言われました。40年前はそれで良かったのかもしれませんが、これから先、北九州全体が美しい街として誇らしくやっていくために、やはり里山で暮らしていく人たちの明るい未来とか、里山で暮らしたい、お子さんを育てたいという若い人たちのために、もう一度都市計画を温かい目で見直していただけないかなと思ひまして、勇気を奮いました。失礼いたしました。

司会： これからの都市計画についてというご質問がございました。これまでの経験を踏まえてのご質問でございました。

これから、皆がこの地をもっと愛するように、豊かな自然を、そして緑豊かな、また海にも囲まれています北九州ならではの風土を活かした街に未来をつないで住み続けていきたい、ご高齢の方も交えてということですが、そうい

った思いを踏まえての、勇気を振り絞ってのご質問ということでございました。
どうぞ、よろしくお願いいたします。

松岡局長： 今、ご質問いただきました。私も同じ世代でまさにそういった体験をしていますけども、都市計画と言うのは非常に大切な計画だと思っています。

やはり、街づくりというものを、将来の街を形づくっていく非常に大切な計画でございまして、従前は先ほどのつながりという面では縦割り、横わりという話がありましたが、ここが住む場所、ここが産業の場所、ここは自然の場所、そういうふうに決めてしまう方が効率がよくて、そういった都市計画であったような気がします。そこで決められたところのなかで、だんだんと発展していくにつれて、本当に思うような場所がなくなってくるといった部分があったのだと思います。

しかし、今の北九州市は、北橋市長になって、モデル都市や未来都市、そういったところ選ばれた中で、市長からの指示もあって全面的に我々も考えさせられました。街づくりというのは何なのだろうということで、市役所の職員、また外部の皆様の意見もいただきながらやっていた時に、ある意味では共生社会という部分、これは単に自然と街が共生するだけではなくて、やはり産業と街が共生する。例えば、東田でいうと工場があって、工場のエネルギーを街が作っていく。今までは工場と街と言うのは対立する図式でしたけど、工場があるからこの街の環境は良くなる、そういった関係とか、いろいろな多様性、皆がコラボしながら作り上げていく社会というものが、これが今からの新しい街づくりの方向性だろうと思っています。

制度的にもいろいろな難しい面もございます。そういった部分のなかでは、北九州市もいろいろな場面のなかでチャレンジしていますので、それをしっかりと国の方にも見せていき、その良さを理解していきながら、そしてそれが制度的にも私どもが望むような形のなかで制度も整備され、私どもも努力していき、そして本当に共存する社会、共生の社会が実現できるように、私どもも一生懸命努力していきたいと思っています。どうも、ありがとうございました。

司会： よろしかったでしょうか。ありがとうございました。

それでは、続きましてご意見、ご質問などがございましたら、どうぞ、挙手をお願いします。

質問者2： 中村さんに素朴な質問をしたいなと思っていますが、実は私もメダカを探したり、エビを探したりを北九州市内で歩いてやっていたことがありますが、すぐ近くでブラックバス、ブルーギルを釣り上げて、から揚げにして食べるとい

うことをされていたとお伺いしたのですが、実際に味はどうだったのでしょうか。

中村： 味については個人の好みがあると思いますけども、ヒントとしてブラックバスというのは肉食の白身の魚です。肉を食べているので自分は美味しいと思いますけど、食べる時はバジルと塩とニンニクを入れて炒めましたけど、結構おいしかったです。ただ、皮が臭くて、それをはぐときれいな白身が出てきます。

質問者2：川が近くなので、釣りに行きたいなと思ったのですけど。

中村：今は確かその場で殺してしまわないと、持ち運びも禁止になっていると思いますので、そこで料理をしてみてください。

質問者2：分かりました。ありがとうございます。

司会：そういった質問も出ましたけども、ぜひ試されてください。

それでは、もう時間となりますので、もう一方ございましたら、遠慮なくお願いさせていただきます。

質問者3： コーディネーターの眞鍋さんが、環境というのを考えるときに、場さえ設ければ皆がやってくれるんだ、ということがすごく印象に残りました。そこで、今日パネリストで出ていただいている方に聞きたいのですけど、これまで場を作ってきた経験から、場を作るためにいちばん大事だと思うことは何でしょうか。一つずつ教えていただきたいと思います。

司会：場を作るために大切なこと、何か秘訣がありましたら一言ずつお願いします。

福丸： まず場を作るのに大切なのは、お互いを尊重するということです。例えば、いろいろなことをやるときに、必ず私はお礼状を出します。

そういうことによって参加していただく。そして、来れない人については批判をしません。来れるときで良いから来てくださいということによって言っています。学校や保育所については、皆さんが来れる人たちだけでよいということで、「なぜ来なかったか」ということは一切いいません。

来れる時間だけでよいということ、お互いに尊重して信頼関係を作るということが大事だと思っています。

梶井： 場を作ったことによって来てもらった方に楽しんでもらうということが一番ですけど、場を作っている人も楽しんでいるといいですか、作ってやったぞ、みた

いになってしまうと何も面白くないと思うので、やっている人も、そこに来た人も楽しめるには、楽しむにはどうしたらいいのかなということを日々考えています。

中村： やはり、先ほどから言われているみたいに、とにかく来た人が楽しんで帰れるし、こちらもニコニコしてやっているということではないかと思います。先ほども申しましたけども、福丸会長さんにつながるところもありますけど、「できる人ができることをできるだけ」、あとはいらっしゃる方々、個人個人いろいろな能力を持たれている方もいらっしゃいますので、そこら辺を尊敬しながら、尊重しながらいつもニコニコしているということじゃないかと思います。

三根： 場を作るということで難しいのですが、場ができるためにはいろいろな方たちの協力が必要になります。

例えば私たちに言うと、本社のいろいろな業務をしてくださる方、それから見学案内をするためにはいろいろな情報教えてくださる方々、それから環境局の皆様、いろいろな方たちが場を整えてくださるので、あとは私たちがそれぞれ皆さんから頂いたものを来られた方に提供できる場を整える。そして、その後をしっかり活かすということを心がけてますので、場づくりは皆さんのご協力があってこそだと思います。そういった場を作るのも横のつながりとかで広がっていきますので、いろいろな場をいろいろなところで作って PR するとか、皆さんに来ていただける場づくりもできたらいいと思っています。

眞鍋： 場を設ければ必ず誰しもやっていただけるものではないと思います。全員が全員そういうわけではないと思います。

ただ、今日のお話にもありましたように、何か活動してみたいということがあったときに、どうしていいかわからないという方も多いと思います。

そういう方のために活動できる場を作るという意味で申しあげました。

私の場合は、よく言われる言葉で win win の関係といいますか、参加する人も楽しいとか、役に立つとか、それで自己実現ができるとか、そういったメリットがある。逆に参加していただいた主催者側にも、自分たちが楽しいとか、あるいは自分たちが貢献できるとか、双方に win の関係を作ることが、そういう場を作るということが非常に大事ではないかと思います。

司会： こういった答えでよろしかったでしょうか、皆様方から様々な意見を頂戴いたしました。

皆様からのご意見、ご質問を頂戴いたしまして、この時間は終了とさせていた

できます。

本日は、環境力につきまして、第一線で活動されています皆様方にご登壇をいただき、そして、環境について関心が強いのだなと思われる、そういった意気を感じられました。そういう市民の皆様方にお集まりいただきました。

こうした熱い思いに共鳴して、自宅に戻って、学校に、職場に、地域に戻って他の人に話す。そして思いのひだが波を打って、そして北九州市が誇る市民環境力、継続的な継続可能な活動が世代を超えてより強固なものになるのではないかと、次の50年に向けても必ずつながっていく、そう確信できる時間を皆様と共に感じる事ができたのではないのでしょうか。

ここでお集まりいただきましたパネリストの皆様には、これよりご降壇となります。

皆様、改めてコーディネーター、パネリストの皆様に盛大な拍手をお願いいたします。

これをもちまして、タウンミーティング「市民がつくる『環境首都・北九州』」を閉会いたします。

本日は、長時間に渡りお付き合いいただき誠にありがとうございました。

冒頭でご案内しましたとおり、アンケートの回収を出口で行っております。皆様のご協力をお願いいたします。

お帰りの際は、お忘れ物のないようお気をつけください。

本日は、ありがとうございました。